

平成19年度実施事業 事業評価シート

事業名:	プラスチックリサイクル委託業務	4-2
・運営の方法(1:直営、2:民間委託、3:補助、4:その他)	複数回答可	2
・事務の分類(1:自治事務、2:法定受託事務)		1

担当部課	市民生活部ごみ対策課	直通電話	72-3126
担当部長	川又 和雄	担当課長	藤岡 修一
		担当者	吉田 恵

1 事業のアウトライン			
(1)事業概要及び交付金額等の積算根拠	ごみの減量化を目的として「燃やせないごみ(プラスチック類)」のリサイクルを行う。		
(2)事業開始年度	平成19年度	(3)事業終了年度	未定
(4)総合計画での事業体系	テーマ等	4 豊かな自然を守り育てる	
	施策項目(大)	(3)資源循環型社会の実現	
	施策項目(小)	ごみ発生抑制と排出抑制のしくみづくり	
	施策コード	40301	

2 事業の内容	
(1)事業の目的 何のために	ごみの減量化と資源の有効利用を図る。
(2)目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	家庭ごみのうち「燃やせないごみ(プラスチック類)」のリサイクルを実施し、ゴミ処理量の削減を行なう。
(3)事業の方法 どんな手段を講じるのか	民間事業者に委託し、燃やせないごみの中からリサイクルできるプラスチック類を選別し、再生利用を行う。
(4)19年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	
(5)事業の背景・社会状況・他の類似事業など	ビニールや食品トレイなど分別収集してリサイクルを行っている。
(6)事業の立案や実施における協働の視点	

3 事業に投入した行政資源					
	区 分	H17	H18	H19	H20予算
(1)直接事業費(千円)				14,938	22,680
(2)その他の間接経費(千円)					
(3)従事正職員の人件費(千円)		0	0	3,588	
総事業費((1)~(3)の合計:千円)		0	0	18,526	
事務に従事した正職員延べ人数				0.40	

4 交付団体の予算・決算 (単位:千円・%)											
収 入	区 分	H17	H18	H19	H20予算	支 出	区 分	H17	H18	H19	H20予算
	市補助金等(A)										
	計(B)	0	0	0	0				0	0	0
(A/B)											

5 事業活動の結果 (単位:トン・%)					
活動指標名		H17	H18	H19	H20
燃やせないごみ搬入量(トン)	目標値			未設定	未設定
	実績値			634	
	達成率			-	
	目標値				
	実績値				
	達成率				
	目標値				
	実績値				
	達成率				

6 事業の成果		(単位:トン・%)			
成果指標名		H17	H18	H19	H20
家庭ごみ排出量(トン)	目標値			未設定	未設定
	実績値			10,071	
	達成率			-	
燃やせないごみ削減量(トン) (リサイクルされた量)	目標値			未設定	未設定
	実績値			415	
	達成率			-	
家庭系ごみ資源化率(%) (廃プラ量/ゴミ処理量+リサイクル資源総量)	目標値			未設定	未設定
	実績値			2.62	
	達成率			-	

7 事業の観点別評価		担当課長が評価します。					
(1) 必要性		(4) 有効性					
ア 市民ニーズ 社会経済情勢の変化に対する市民ニーズはどうか	1 大きい	2	ア 施策との関連 事業の成果と施策の成果とに関連があるか	1 密接な関連がある	1		
	2 普通			2 関連がある			
	3 小さい			3 関連はほとんどない			
イ 市の関与 その事業に市が関与する必要があるかどうか	1 行政にしかできない	1	イ 成果 事業の成果は目標を達成しているか	1 すべて達成している	2		
	2 民間等でもできる			2 一部達成している			
	3 民間等でやるべき			3 達成していない			
(2) 効率性		(3) 公平性		(1)~(4)の評価ポイント合計 総合評価の参考にしてください。 7~11 A or B 12~15 B or C 16~21 D or E 12			
ア コスト削減 コスト削減は可能か	1 不可能である	2	ウ 事業内容 目指す成果の実現を図る上で、今の事業内容は適当か			1 極めて妥当	2
	2 難しい					2 一定の妥当性あり	
	3 可能である					3 妥当性が低い	
ア 受益者負担 さらなる受益者負担は可能か	1 不可能である	2					
	2 難しい						
	3 可能である						

8 課長評価		担当課長が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		再生利用が可能なビニール・プラスチック類を選別しリサイクルをする事により、ごみ処理量の削減が図られている。	
B	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
	(2) 今後の方向性・課題	「燃やせないごみ」の中に再利用できない「燃えないごみ」等も含まれており、リサイクル率を向上させるため、市民に分別に対する協力を求めていく。	
(3) 平成21年度の方向性			
*:担当課長		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		

↓ ここまで担当課長が記載した上で、パブリックコメントを実施し、市民意見を募集します。

9 課長評価に対する市民意見	

10 部長(市長)評価		課長評価に対する市民意見を踏まえて、部長職(もしくは市長)が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		燃やせないごみとして排出される「ビニール・プラスチック類」のリサイクルが進んだ。	
B	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
	(2) 今後の方向性・課題	排出されたごみが全てリサイクルされるよう、家庭における分別の徹底を図るための仕組や啓発が必要。	
(3) 平成21年度の方向性			
:担当部長(もしくは市長)		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持		
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		